

中野区立第七中学校 令和6年度 学校経営方針

令和6年4月22日

【教育目標】

- 「すすんで学ぶ人になろう」 個に応じたきめ細やかな教育を実践して、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、生徒自らがすすんで学ぼうとする態度を育てる
- 「心ゆたかな人になろう」 // 思いやりの心や社会生活のルールを身に付けさせ、人間性豊かな人格をはぐくむ
- 「社会につくす人になろう」 // 勤労と責任を重んじ自らが平和で豊かな社会をつくり出す一員となる自覚と態度を育てる

【基本方針】

中学校の3年間は、人生において大変影響を受けやすく、多くのことを吸収できる時期である。この時期に「粘り強さ」「よりよく生きようとする力」をつけさせることが学校の役割である。そのためには、「学び、知識を得ることによって豊かな人生を拓く」「人と人とのコミュニケーションが人として成長させる」「何事にも積極的に取り組める健康な心と体をもつ」ことが重要であると考え、学校経営の基本方針とする。

さらに、自ら興味・関心をもち、選択し、決断する機会を増やしていくことで、主体的に行動を起こしていく力を高め「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」学校教育を行う。そのためには「地域と歩む第七中学校」として、保護者・地域の協力と信頼を得ながら、豊かな学びを実現することで、生徒の育成に尽力していく。

【目指す学校像】

- 確かな学力を身に付け、学ぶ楽しさを感じることができる学校
- 活気が満ちあふれ、豊かな心を育む学校
- 健康と安全、個性が保障され、一人一人が大切にされる学校
- 生徒や保護者、地域からの信頼ある学校

【目指す生徒像】

- 主体的に行動し、自律できる生徒
- 自他共に大切にできる生徒
- 言葉を大切にし、明るく挨拶ができる生徒

【目指す教師像】

- 生徒を信頼し、任せて支援することで可能性を伸ばす教師
- 共感的理解の視点をもち、生徒と積極的にふれ合い育てる教師
- 自ら積極的に学び「子どもを主語」にする学びを実践できる教師
- 有機的に連携することができ、危機意識を常にもつ教師

【指導の重点】

<教科指導>

- 2学期制による学習指導計画や評価方法を工夫し、確かな学力を育成する。土曜授業を年6回実施する。
- 授業の導入では、生徒に本時の「授業の流れ」や「めあて」を明確に提示し、見直しをもたせる。
- 授業のねらいに応じた「振り返り」を行い、学びの成果を実感できる授業を展開する。
- 小・単元テストやレポート、定期考査を利用して、学習の振り返りにより自己調整力の向上を図る。
- 数学科では習熟度別指導、英語科では習熟度別少人数指導の実施により、個に応じた指導を展開する。
- 授業での形成的評価やICTによる個別学習ドリルにより学習状況を把握して、学習時間を柔軟に設定したり、指導方法や教材等を提供することで「指導の個別化」を図る。
- 生徒の興味・関心に応じて、学習活動や課題に取り組む機会を提供することで「学習の個性化」を図る。
- 協働学習支援ソフト等を活用しながら、意図的に話し合い活動や発表活動の場面を設定し「協働的な学び」を展開することで、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。
- 放課後学習教室や長期休業中の学習教室等を開き、補充的な学習を実施する。
- 「中野区イングリッシュキャンプ」やALTを活用した体験活動を通して、外国語によるコミュニケーション能力向上を図る。

<生活指導>

- 生徒、保護者に積極的にに関わり、情報共有を密に行いながら教育相談の充実を図る。
- 情報モラル教育や薬育教育、セーフティ教室により犯罪被害及び加害から身を守る態度を養う。
- 全教職員・生徒がいじめに毅然とした態度で臨み、組織的な対応により未然防止、早期発見と解決を図る。
- 教育相談機能や関係諸機関との連携により、不登校の未然防止、早期支援を図る。長期化への対応には一層の信頼関係を積極的に構築しながら、保護者との連携を深める。
- 援助希求の態度を育成し、組織的な相談体制の充実を図ることで、受け止め、支援する。
- 安全指導や避難訓練、防災教育により、自助と共助の力を養う。
- 適切な指導を行いながら組織的な特別支援教室を運用する。
- よりよい学校生活や学びに向けた取組が生徒自らできるよう、意見や考え、思いを表明し、選択や意思決定の機会を設けることで、生徒会活動を充実していく。

<総合的な学習の時間>

- 総合的な学習の時間のテーマを「共に生きる」と定め、1年「地域を知る」、2年「社会を学ぶ」、3年「未来を考える」として、よりよい生き方を実践しようとする態度を育成する。
- 校外学習での事前・事後学習により、各学年のテーマに基づき体験的に課題解決を図る学習を展開する。

<進路指導・キャリア教育>

- 3年間を見通した進路指導計画により、将来や進路について考える指導を行う。
- キャリア・パスポートによる自身の変容や成長を自己評価し、キャリア形成に生かす。
- 地域活動や行事への参加により、活動の楽しさを知ること、ボランティアマインドを育み、地域社会の一員としての自覚を高め、地域の担い手として貢献できる資質・能力を育成する。

<特別活動、その他>

- 学級・学年活動、生徒会活動、学校行事を通して、好ましい人間関係を築こうとする自主的で実践的な態度を育成する。
- 長期休業日も含めた、学校図書館の計画的な活用を推進する。また、区立図書館との連携により、体験活動や読書の機会を提供することで、読書活動を充実する。
- 「体力向上プログラム」を作成し年3回の「体力向上月間」を計画的に実施する。
- 「中野区子供の権利に関する条例」を周知し、生徒会活動を通して話し合い、考えや思いを表明できる機会を設定する。
- 保幼小中連携教育を学校行事での連携、教職員や児童・生徒の交流、オープンキャンパス等により実施する。
- 持続可能な部活動を推進するために、意図的・計画的に部活動を運営し、部活動指導員や外部指導員を積極的に活用する。

<特色ある教育活動>

- 「障害者理解」を学校2020レガシーとして設定。通常の学級と特別支援学級の教員同士の対話を活発にし、特別支援教育を生活指導に生かし、障害者理解を深める。

<特別支援学級>

- 障害に即した個別指導計画に基づき、能力や発達段階に応じた目標の設定による教育活動を行い、自己肯定感を高めさせ、自立と社会参加を目指す。
- 体験的な学習を通し、成就感や達成感を味わう。
- 「身体の動き」の指導により運動・動作の改善及び体力の向上を図る。
- 状況に応じた言語活動を通してコミュニケーション能力を培う。
- 特別支援学級と通常の学級の教員同士の対話を活発にし、生徒間での交流及び共同学習を推進する。また、他校の特別支援学級との交流の推進する。

【本校の研究】

コミュニケーション能力向上による関係構築の方法 ～ 信頼ある学校づくりの推進 ～